

中山間地域集落の変遷と課題に関する研究

平成 30 年 2 月 山崎 脩司

要旨

目的

我が国の農業集落は、農業を支えてきた昭和一桁世代のリタイアが進行し、社会的活動が困難となり、存続が危ぶまれている。中山間地域の集落の消滅は、農産物の生産だけでなく、国土保全にも関わるため、深刻な問題である。したがって、本研究では、農林業センサス等による分析を通じ、中山間地域である白馬村、小谷村の 34 集落を対象とし、中山間地域集落の変遷と集落維持のための課題を探る。

方法

集落の時系列的な変容を捉えるために、農林業センサス集落カードのデータから農業集落の実態を示す 25 指標を選定し、主成分分析、クラスター分析などを用いたデータ分析を行う。また、分析後、発展している集落、維持している集落、衰退している集落に分類し、各集落において聞き取り調査を行う。そして、これらの結果を踏まえ、今後の農業集落のあり方について考察する。

結論

分析の結果、中山間地域における集落維持のためには、「農業集落としての総合力」が深く関わっていることがわかった。具体的には、「農家数」、「経営耕地面積における畑割合」という要素である。今後、その「農業集落としての総合力」を向上させるために、農家人口を維持・増加が期待できる集落営農などを行うこと、耕作放棄地を畑に転用し、多品目生産することが必要である。また、行政との連携により、多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払制度等の支援も必要である。

指導教員 藤居 良夫 准教授